

## はじめに

「基礎・基本」定着状況調査は平成14年度から始まり、今年度で13年目となりました。各学校においては、本県の児童生徒の基礎学力の定着に向け、「基礎・基本」を徹底させるための学習が進められ、全国学力・学習状況調査においても徐々に成果が表れてきています。

しかしながら、「基礎・基本」定着状況調査、全国学力・学習状況調査ともに、「基礎・基本」の定着を問うタイプⅠ及びA問題に比べ、教科で学んだ知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用し課題を解決する力を問うタイプⅡ及びB問題の通過率・正答率が相対的に低く、また、通過率30%未満の児童生徒が一定の割合を占めている状況が数年来続いています。今後、児童生徒一人一人が主体的に知識・技能を習得するとともに、習得した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力を伸ばす指導を一層充実させる必要があります。

本報告書では、学校教育法に示された学力の3要素を念頭におき、「基礎・基本」定着状況調査及び全国学力・学習状況調査の教科調査、質問紙調査の結果について総合的に分析をしています。第1章では、教科調査と児童生徒質問紙、学校質問紙の関連に注目し、教科調査における児童生徒のつまずきや、学力が向上している児童生徒及び学校の意識や実態等について分析しています。第2章では、教科調査において課題であった問題について、その問題のねらいや誤答の状況等について解説を加え指導のポイントを示しています。第3章では、今年度の調査で成果のあった市町の取組の事例を紹介しています。

各学校においては、学校全体としての組織的な取組を進めるに当たり、本報告書を参考に児童生徒一人一人の分析・考察を深めるとともに一層の授業改善を進め、基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成を図っていただきたいと思います。

最後に、本調査の実施、分析、報告書作成に御尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝を申し上げます。

平成27年1月